

4—35

1 (表紙)「破損」

2 「破損」

3

一 台徳院様御代元和四年五月十六日松平

新太郎様^江以

御奉書竹嶋渡海之儀私共先祖之者^江
被為

仰付候、右

御奉書之写如左

(從力)

■ 伯耆国米子竹嶋^江

■ 十舟相渡之由候

4

(然者力)

■ 如其今度致渡海

度之段米子町人村川

市兵衛大谷甚吉申上

付而達

上聞候之处不可有異儀之

旨被仰出候間被得

其意渡海之儀可被

仰付候、恐惶謹言

5

永井信濃守

在判

五月十六日

井上主計頭

在判

土井大炊頭

在判

6

酒井雅樂頭

在判

■(松力)
平新太郎殿

人々中

一 右之通御座候

台徳院様以來

御目見被為

7

仰付候節於

御城御役人様方より為心得被遊御渡候

御礼之次第書先祖之者より毎度之

御書付所持仕候処享保三年戌十二月廿七日之

夜出火之節居宅類焼仕候砌先祖より之

書付帳面等焼失仕候、尤焼残リ候

次第書之写如左

8

五月廿八日

如例月御礼相濟

参勤之御礼

綿式百把金馬代

松平肥前守

綿百把金馬代

松平主殿頭

蠟燭二箱金馬代

松平筑後守

上杓弾正大弼在着_{ニ付而}

以使者蠟燭五箱二種一荷

9

被差上之使者銀馬代を以

自分之御礼色部又四郎

終_而御次之間伺公之面々并

落縁_{ニ而}

伯耆国米子町人参上

大屋九右衛門

箱肴

右終_而入御

■通御座候

1
0

台徳院様以来

御代々様^江

御目見之節竹嶋蛸老箱献上仕候、尤

献上之御残御老中様方御側御用人様方

若御年寄様方寺社御奉行様方^{江茂}

奉差上候ニ付

台徳院様御代御側御用人松平右衛門太夫様より

御直書被成下候、ケ様之類数多御座候処

1
1

右書頭候通類焼之節焼失仕候相残候

写如左、尤堅御捻

イ

小 口

大屋九右衛門殿

松平右衛門太夫

官所

正綱

今朝^者被相尋殊串蛸

(五カ)

■百入一箱預持参候、心

(付カ)

■之通令祝着候、令他出

1
2

(不カ)

■能面談候、猶期面候、恐々

謹言

八月十四日

正綱書印

右之通御座候

一 常憲院様御代寺社御奉行秋元撰津守様より

御使を以御口上書被成下候写如左

1
3

口上之覚

今度当御地^江被相越候付

昨日^者御入来殊竹嶋

丸千蛸一箱預持参怡悦之

至候、為其如斯候、以上

ホ

秋元撰津守

五月廿日

使

常憲院様御代元禄七歳乍恐

1
4

御目見之年番^ニ御座候間当御地^江相詰

則三月廿八日参上之為御礼

御目見被為

仰付難有仕合奉存上候、且元禄五年六歳

竹嶋^江渡海仕候得共唐人罷在候付所務

不仕帰帆仕候間例格之通

献上可仕匏無御座、依之干鯛一箱

献上仕候、尤御役人様方^{江茂}箱肴差上

1
5

申候、其刻為御挨拶以御使御口上書被成下候

数通右書頭之通類焼^之節焼失仕候

相残候写如左

口上之覚

昨日^者干鯛一箱

預持参候、令祝着候

■^(為力)其如斯候、以上

秋元但馬守

三月廿九日 使

1
6

昨日^者干鯛一箱

■^(持力)参令祝着候

為其以使申候、以上

加藤佐渡守

三月廿九日 使

右之通御座候

竹嶋^江渡海仕候道法之内隱岐国嶋後

1
7 一

福浦より七八拾里程渡り候^而松嶋と申小嶋
御座候付此小嶋^{江茂}渡海仕度旨

台徳院様御代御願申上候處願之通被為

仰付竹嶋同格^ニ歳々渡海仕候、尤每度

奉差上候竹嶋渡海之絵図^ニ書頭候御事

台徳院様以来

御巡見被為成御通候節伯耆国米子

御止宿之砌村川市兵衛大谷九右衛門被

18

召出竹嶋渡海之儀、尤

台徳院様以来私共先祖より

御目見被為

仰付候次第被成御尋候付委細言上、則

書付奉差上候御事

一 大猷院様御代寛永十五年

西之御丸御書院床之板御書棚^之板

御用^ニ付竹嶋梅檀可差上旨被為

19

仰付候、則奉指上候砌村川市兵衛大谷

九右衛門当御地^江相詰罷在候御事

一 寛文六年午歳竹嶋^江渡海之年番大谷

九右衛門仕立之舟船数之内壹艘廿七人乗

帰帆之節朝鮮^江被吹流舟ハ破損

仕候得共人数ハ舟頭水主共無別条陸^江

上り候節朝鮮人出合介抱仕所之役所より

吟味有之其上逗留中馳走日本^江

20

帰帆之節国王より舟頭水主^江音物目録等之

次第其砌對州之役人中^江舟頭水主委細

書付出候控之写如左

伯耆国漂流人口書之覚

一 伯耆国米子^与申所之村川市兵衛大谷甚吉

仕出之拾三端帆之船二艘人数五拾人乗

当年午ノ二月三日本国出舟、同十三日隱岐国^江

着船、四月六日彼所出帆、同八日竹嶋へ着舟仕候事

21

- 一 船主村川市兵衛大谷甚吉儀御朱印
頂戴仕居、毎年竹嶋^江舟差渡相調之物^者
ミちの魚之皮同油串蛇^{ニ而}御座候、則御
朱印之写所持仕罷在候事
- 一 国本よりハ右二艘之船^{ニ而}竹嶋へ渡り於此所
拾五端帆之舟壺艘作り我々廿壺人ハ、則
十五端帆^{ニ乘}三艘^{ニ而}七月三日彼嶋帰帆之節
遭難風二艘之儀^者何国^江漂着仕候^茂
- 2
2 不存候拙者共乗船ハ洋中ニ二夜漂罷在
同五日之夜四ツ時分ニ朝鮮国之内ちやんきり
灘^与申所へ致漂着、於浦口舟破損仕
夜ル之八ツ時分陸^江游上り居申候処朝鮮人
出合我々令手引ちやんきりへ列参宿壺軒^ニ
二三人宛召置候^而粥を振廻申候、此所五日
逗留仕候家数廿軒程相見江申候、其内ニ地頭
被罷越切麦酒肴等振廻被申候、其後ちやんきりの
- 2
3 城下^江被引越五日逗留仕候、其間兩度酒
肴振廻被申候事
- 一 七月十四日ちやんきりを罷立、道中せそんと
申所之地頭より酒肴振廻被申候事
- 一 うるさんと申所^江三日逗留仕候、此外道中ニ
泊り申候得共所之名竟不申候
- 同廿一日とくねき^江参着仕候、其日菓子酒
肴振廻被申候、其外逗留中三度酒肴振廻
- 2
4 御座候、此所ニ逗留七月廿一日より拾月三日迄罷在候
同四日とくねきよりさすとふと申所へ罷越候
此時^茂とくねき地頭より酒肴菓子振廻被申候事
- 一 七月六日より十月四日迄ハ朝鮮国より扶持方塩噲
薪等迄給候御馳走^{ニ而}御座候事
- 一 拾月四日さすとふへ罷越候刻朝鮮^江被差置候
役人中出合我々生土并宗門手形諸道具等之
儀迄念頃ニ改有之、其所より舟^{ニ乘}侍中付キ
- 2
5

十月七日對州之内わにの浦と申所へ着船致
昨九日^ニ爰元^江罷着申候事

人数廿壹人宗門并歳付

上乘

一 浄土宗 旦那寺 伯耆国 大連寺 歳三十五 二郎兵衛

舟頭

一 禅宗 旦那寺 同国 安国寺 同三十六 太郎右衛門

鉄砲打

一 同宗 旦那寺 同国 福巖院 同四十 久兵衛

同役

一 同宗 旦那寺 同国 西福寺 同廿五 又右衛門

かぢ

一 浄土宗 旦那寺 同国 大連寺 同四十二 与三右衛門

26

あわひつき

一 同宗 旦那寺 隠岐国 浄土寺 同三十七 太郎右衛門

同役

一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同三十六 小作

同役

一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同三十二 五郎作

舟大工

一 真宗 旦那寺 伯耆国 万福寺 同三十八 長兵衛

楫取

一 禅宗 旦那寺 同国 法増寺 同廿九 傳助

桶大工

一同宗 旦那寺 同国 安国寺 同廿二 久右衛門

水夫

一 真宗 旦那寺 同国 万福寺 同三十九 作兵衛

同

27

一 法花宗 旦那寺 同国 本教寺 同廿二 十兵衛

同

一 禅宗 旦那寺 隠岐国 万泉寺 同廿九 作助

同

一同宗 旦那寺 同国 同寺 同五十四 次郎左衛門

同

一 真宗 旦那寺 伯耆国 万福寺 同廿七 治兵衛

同

一 禅宗 旦那寺 同国 法増寺 同三十二 角助

同

一同宗 旦那寺 隠岐国 万泉寺 同四十四 甚七

同

一同宗 旦那寺 同国 同寺 同廿九 九郎助

同

一 浄土宗 旦那寺 同国 浄土寺 同四十 五助

同

28

一同宗 旦那寺 同国 同寺 同三十 彦八

右我々宗門寺請之儀本国出舟之刻大谷甚吉

手前ニ留置宗門寺請を別紙ニ相認舟奉行へ遣、往来

切手出シ申候を請取出帆致候、然所船破損致候

刻右之往来切手箱共ニ捨り申候故所持不仕候
尤船ニ積候荷物舟道具之儀破損之刻
捨り申候を朝鮮人被入念取揚給候品々
改御座候、以上

十月十日

2
9

右之趣舟頭次郎兵衛公儀^江申上覺書如件

明ル未ノ

寛文七年

大谷九右衛門

二月廿九日

右之表未ノ二月廿九日書之写

右ニ書頭候通朝鮮国逗留中従国王

舟頭水主^江貼別之目錄式通如左

3
0

漂倭處別贈

堅紙

頭倭一人

薄様之厚

白米貳斗

様成紙

白紙貳卷

従倭二十一名

白米各壹斗

白紙各壹卷

朱印

丙午九月日

巡察使(花押)

3
1

漂倭二十二入

右同断

白米拾肆石拾斗

大口魚壹百拾尾

清酒貳拾貳瓶

東苴貳拾貳塊

生鮮貳拾貳束

甘醬陸斗陸升

際

丙午十月日

右同断

3
2

右之通御座候

一 天和四甲子二月

権現様以來之御勘狀亦者御褒美之

御書有之候者早々相断可申旨

御触之趣從松平伯耆守様被仰渡、依之指上

申候書付之写如左

3
3

覺

一 私共竹嶋江渡海仕候儀者松平新太郎様

因幡伯耆御領知被成候節元和三年伯耆国江

御仕置之為

御使阿部四郎五郎様御越被成候ニ付私共親

御訴詔申上、翌年御江戸江相詰御詮議之上

新太郎様江

御奉書被遣之從新太郎様其

3
4

御奉書私親共頂戴仕難有代々所持仕候、夫より

隔歳兩人ニ而渡海仕候、就夫八九年之内一人宛

罷越

御代々様

御目見被為

仰付候、延宝九年酉七月当

御代様江茂村川市兵衛

御目見申上候、以上

3
5

天和四年

村川市兵衛

子ノ二月廿日

大谷九右衛門

右之通御座候

一 元禄五年壬申歳如例年竹嶋江渡海仕候處

唐人罷在依之帰帆仕候、夫より六年七年八年迄

御差図を以渡海仕候處、年々唐人相増罷在候付

所務不仕帰帆之節其次第委細御届ケ申上候

3
6

然処元録マニ九丙子年正月廿八日以

御奉書竹嶋渡海制禁之旨松平伯耆守様迄
被為

仰出則從伯耆守様右之趣被為仰渡候、尤
御奉書之写如左

先年松平新太郎

因州伯州領知之節

37

相伺候ハ、伯州米子之

町人村川市兵衛大谷

甚吉竹嶋^{江渡海}

至于今雖致漁候

向後竹嶋^{江渡海}之

儀制禁可申付旨

被仰付候間可被存

其趣候、恐惶謹言

38

土屋相模守

在判

正月廿八日

戸田山城守

在判

阿部豊後守

在判

大久保加賀守

在判

39

松平伯耆守殿

右之通御座候

一 竹嶋渡海制禁被為

仰付候付家業を失渡世可仕様無御座、依之村川

市兵衛儀元⁽⁴⁴⁾録 十丑年より午年迄前後六ケ年

40

相詰御歎キ之御訴詔申上候御事

一 享保九甲辰年竹嶋渡海之儀被為遊
御尋候旨從松平相模守様御書付を以被為
仰渡候趣如左

江戸御尋書之写

4 一 先年竹嶋^江伯耆国より相渡候者唐人出合追払候
1

其節唐人何人程嶋^ニ居有之候哉、弓鉄砲等
持居申候哉、年号月日共委細書付可差上事

一 其以後又罷越候處其節も唐人出合追払候、其
節^者唐人兩人召捕罷越候、其節之首尾并
年号月日相調可差上事

一 右之嶋^ニ有之候品々委細書付可差上事

一 竹嶋東西広サ大概之絵図仕可差上事

一 右嶋^ニみち有之候哉、其外獸類有之由相聞候

4 此段委細書付可差上事
2

一 右嶋^ニ竹木^者如何様成もの有之候哉、書附
可指上事

一 唐人相渡り候時節^与伯耆国より相渡候時節違候様
相聞候、此段も可申上事

一 伯耆之浦より竹嶋迄渡海之数里如何程有之候哉
竹嶋より朝鮮^{江者}如何程可有之候哉、此段書付
可差上事

4 3
(朱書き)「第御七ヶ條御尋御座候」

右之通御座候

一 右本文^ニ書頭候通竹嶋絵図

左之通御座候、尤有増書込候

絵図^{ニ而}御座候、委細之儀^{者別ニ}

4 4

大絵図所持仕罷在候猶以委

御尋^茂御座候^者右之大絵図

尤口上^{ニ而}可申上候

4 5
竹嶋有増之絵図如左

(絵図①から⑭)

- ① 雲州三保関
- ② 雲州雲津
- ③ 雲津ヨリ千振十八り
- ④ 隠州中嶋
- ⑤ 中嶋ヨリ福浦へ八里
- ⑥ 隠州焼火山
- ⑦ 隠岐嶋前三嶋
- ⑧ 隠州千振
- ⑨ 隠州嶋後
- ⑩ 東
- ⑪ 福浦
- ⑫ 是ヨリ松嶋へ七十里計
- ⑬ 松嶋
- ⑭ 此間四拾間計
- ⑮ 松嶋
- ⑯ 是ヨリ濱田浦四拾里計
- ⑰ 古大坂浦 いか嶋
- ⑱ まの嶋 まの嶋
- ⑲ 大坂浦
- ⑳ 北浦
- ㉑ 柳浦
- ㉒ 北国浦
- ㉓ 竹か浦
- ㉔ 濱田浦入津所
- ㉕ 竹嶋
- ㉖ 唐船かはな
- ㉗ 竹嶋大廻り拾里計

4
6

一 右御請書并絵図之外ニ老通奉差上候

書付之写如左、是^著相模守様御尋之事

乍恐口上之覚

一 三拾三年より三拾壹年跡迄竹嶋^江渡海之舟頭

水主存命^{ニ而}居不申候、雲州并隠岐国より過半

召抱申候、右之所之者存命^{ニ而}罷在候哉、此段

不奉存候

一 三拾三年已前竹嶋へ渡海仕、只今相残り居申候者
47

五人御座候、内式人^者廻船^{ニ而}罷出宿^{ニ居}
不申候、残三人之内式人^者八十余^ニ罷成申候
此度召連申候者七十式才^ニ罷成申候

一 此度召連候弥三兵衛と申水主ハ三拾三年より
以前渡海仕候者^{ニ而}御座候

一 唐人竹嶋^江参居申候節自分小屋拵

申候哉と被成

御尋候、自分拵申候様子^{ニ者}相見へ不申候

48

毎年此方より拵候小屋^ニ居申候由水主共申候

一 三拾三年以前竹嶋^{ニ而}唐人見申候哉と被為遊

御尋候、元和年中以後唐人見不申候由

其節申上候

一 私共元祖何代竹嶋へ渡海仕候哉と被遊

御尋候、村川市兵衛儀三代以前より渡海仕名

三代共^ニ市兵衛と申候

大谷九右衛門儀唯今迄四代竹嶋渡海

49

御免之節^者甚吉と申候、後三代ヲ九右衛門と申候

一 竹嶋渡海被為遊

御免候年号

御目見仕候年号并其節被為遊御執持候

御簾本衆御名之儀被為遊

御尋候、私共竹嶋渡海之儀^者松平新太郎様

因幡伯耆御領知之時分元和三年伯耆国

御仕置之為

50

御使阿部四郎五郎様被成御越候時分、私共先祖

御訴詔申上、翌年江戸表^江相詰御詮議之上

新太郎様^江

御奉書被遣、則其

御奉書從新太郎様私共先祖頂戴仕、夫より

隔年^ニ兩人^{ニ而}渡海仕候、就夫八九年之内耆人宛

罷越

御代々様

5
1

御目見被為

仰付候、始_而

御目見申上候年号相知不申候

御紋之風見之儀代々所持仕候

御免之由諸年号之儀私共控無御座候

一 元録_(イイ) 十一寅年八月村川市兵衛儀江戸_江罷越

殿様御威光を以竹嶋渡海之儀御願申上候

得共嶋之儀_者相調不申候由_ニ付大勢水主共

5
2

難儀仕候故存寄之儀共御願申上候得共

勝手必死と続不申候付元禄十六末年三月

御屋鋪_江申上罷帰申候、以上

大谷九右衛門

享保九甲辰年閏四月三日

村川市兵衛

右之通御座候

御尋_ニ付右御請書付両通并絵図差添

5
3

奉指上候処再応之

御尋之趣如左

一 米子より出雲国雲津浦出舟之所迄海地

陸地何程有之候哉、但海上迄致往来候哉

一 元禄五壬申年朝鮮人_ニ出合候節米子より

渡海之船頭水主其外人数何程并舟

何艘_{ニ而}罷越候哉

一 翌六年癸酉年罷越候節、舟数并人数

5
4

何程_{ニ而}致乗船候哉

一 渡海之節前々弓鉄砲致用意罷越候哉

一 同七甲戌年同八乙亥年両年罷越候節

人数舟数_茂同前_{ニ而}有之候哉

一 朝鮮人_ニ出合候翌酉年罷越候節、竹嶋

朝鮮人大概何十人程有之候哉

右之通再応之

御尋ニ付御請書奉差上候趣如左

5
5

乍恐口上之覚

一 伯耆国米子より雲州雲津浦迄之道法米子より

濱ノ目境村迄陸四里半出雲国宇井浦_江

五丁計之舟渡り御座候、夫より同国三保之関_江

式里三保之関より雲津_{江者}陸路壱里都合

七里半五丁

一 米子より雲津迄舟路九里

一 元禄五壬申年村川市兵衛大谷九右衛門竹嶋_江

5
6

相渡申候、舟式百石計積申候、舟壹艘遣シ申候

舟頭水主式拾壱人鳥銃五挺遣シ申候、尤

其節居申候唐人三拾人計見及申候

一 元録₍₄₄₎ 六癸酉年之渡海舟壹艘舟頭水主

式拾壱人鳥銃五挺持参仕候、其節之唐人之

数大勢と計控書ニ御座候、前々舟式艘遣シ候

節_者鳥銃八九挺_茂遣シ申候、弓ハ遣シ候儀_者

無御座候

5
7

一 戌亥両年渡海仕候節舟頭水主船数

鉄砲数同前ニ遣シ申候

一 竹嶋_ニ居申候朝鮮人壹年々増亥年_者杯

所々ニ五拾人三拾人程宛大勢罷在候由ニ御座候

以上

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九年辰五月十日

伯州米子町人

村川市兵衛

5
8

右之通御座候

一 再応之

御尋ニ付右御請書壱通奉差上候、以後

重_而

御尋之趣如左

一 竹嶋_江致渡海候舟頭水主存命_{二而}罷在

米子_二住宅之者共_二候哉

右之通

5
9

御尋_二付御請書奉差上候趣如左

乍恐口上之覺

一 灘町弥三兵衛と申者七十式才_二罷成申候

四拾年以前_二竹嶋_江一度渡海仕候、此度鳥取

召連参候者_二御座候

一 同町長右衛門と申者五十三才_二罷成申候、私共

鳥取_江参候時分八舟_{二而}罷出、近頃罷戻り

申候付様子相尋申候得_者、元録₍₄₋₄₎四年より同六年迄

6
0

三年之間渡海仕候様_二申候、私共儀右之者

十九か廿計_{二而}一度渡海仕候様覺申候故

右之通申上候処、此度直_二相尋候得_者唐人渡海

之節兩年共参申候由申候

一 片原町長兵衛と申者六十三才_二罷成申候

此者前々_之四月中旬舟_{二而}罷出未罷帰不申候故

委細相知不申候

一 立町源右衛門と申者八十四才_二罷成申候、三拾

6
1

七年以前四度渡海仕候由申候

一 灘町吉兵衛と申者七十九才_二罷成申候、四拾三年

以前迄十度渡海仕候由申候、右兩人_者極老

行歩不叶候故右鳥取_江召連不申候

右之通御座候

一 片原町太兵衛と申者七十式才_二罷成申候

四拾四年以前兩度渡海仕候由申候

一 立町惣兵衛と申者七十五才_二罷成申候、四拾

6
2

六年以前_二兩度渡海仕候由申候、右兩人之

儀^者私共急ニ鳥取へ罷越申ニ付相知不申候処
此度御詮議之上^{ニ而}申出候間書付差上申候、以上

村川市兵衛

享保九年辰六月廿三日

大谷九右衛門

右之通御座候

6
3

右之通御座候、依之御請書奉差上候

写如左

第御一箇條之御請

一

元禄五壬申年二月十一日米子より出舟、隠岐国嶋後

福浦^江着岸、三月四日福浦より出舟、同廿六日朝五つ時

竹嶋之内いか嶋と申所^江着舟ノ様子見申候得^者

鮑大分取上ケ申様相見へ不審ニ奉存同廿七日朝

濱田浦へ参申内唐舟式艘相見へ申候内老艘^者

6
4

すへ舟老艘ハ浮舟^{ニ而}居申候、唐人三拾人計見へ申候

右之浮舟乗り此方之船より八九間程沖を通り

大坂浦と申所^ニ廻り申候、右之内兩人陸^ニ残り居申候処^ニ

又小船^ニ乗り参申候故此方之船^ニ乗せ申候^而何国之

者と相尋候得ハ老人ハ通辞^{ニ而}ちやうせん国

かわてんかわくの者と申候故此嶋之儀^者元来

日本之地^{ニ而}從

御公方様代々拝領仕、毎年渡海いたし候嶋^{ニ而}候處^ニ

6
5

何とて其方共参候哉と相尋候得^者此嶋より

北^ニ当り嶋有之三年^ニ老度宛国主之用^{ニ而}鮑

取^ニ参候、国本ハ二月廿一日類舟拾老艘^{ニ而}致

出船難風^ニ逢五艘^{ニ而}已上五拾三人乗此嶋へ三月

廿三日流着、此嶋之様子見申候得ハ鮑有之候間

致逗留鮑取上ケ候由申候左候へハ、此嶋を早々

罷立候様^ニと申候得^者舟少損候間造作仕

調次第^ニ出舟可仕候間其許之御舟是へ御すへ可

6
6

被成と申候得共此方共舟をハすへ不申先人計

以上

6
7

陸へ上り見分仕候処、兼而此方より拵置候諸
道具獵舟八艘見へ不申ニ付通士江段々吟味
仕候得ハ浦々へ廻し遣候由申候、先此方之舟
すへ申様ニと申候へ共唐人ハ大勢此方者纔
廿一人ニ而御座候付無心許奉存竹嶋より三月
廿七日之七ツ時出舟仕申候、然共何にても印
無御座候而ハ如何と奉存、唐人之拵置候

串鮑少笠老ツ網頭巾老ツ味噌かうし

老玉取致出船四月朔日ニ石州濱田浦へ着船仕

夫より四月四日雲州雲津浦迄参、翌五日之七ツ時

米子江入津仕候、右之趣元録(44)五壬申年四月

六日竹嶋渡海之舟頭水主共口上申候、右唐人
弓鉄砲所持仕不候哉と被為遊

御尋候、其節吟味仕候処惣而武具之類所持
不仕候

6
8

第御二箇條之御請

一 元禄六癸酉年二月下旬米子出船、雲州雲津江

着岸、三月初頃雲津より出船、隱岐国嶋後福浦へ

着到、四月十六日四ツ時福浦を出舟、同十七日八時ニ

竹嶋へ参着仕候処唐人大分居申候付陸江

上り段々吟味仕候處不埒之申様付、頭と相見

申候者老人下方之者老人已上兩人召連竹嶋を

同十八日八ツ時出船仕、同廿七日ニ罷戻り申候而

6
9

早速鳥取江御注進申上候処、江戸被為遊

御窺右兩人を長崎江被遣候、其後戌亥

兩年渡海仕候得共唐人大勢居申ニ付所務

不仕帰帆仕候

第御三箇條之御請

一 竹嶋ニ有之品々委細書付差上候様被為

仰出候付古来渡海之舟頭水主共へ相尋候処

見知候物迄品々書留置候付、此度左之通

70

書付差上申候

木竹之類

一	五葉之松	一	梅檀 <small>木之色黒赤実ハクニ御座 ちなしの白きもの候</small>	一	たいたら
一	きわだ	一	椿	一	とが
一	槻 <small>葉もみちのことく 木の色あかし</small>	一	竹	一	まの竹
一	柊	一	桐	一	かび

草之類

71

一	にんしん	一	にんにく	一	ふき
一	めうが	一	うど	一	ゆり
一	こほう	一	あをきは	一	ぐみ
一	いちご	一	いたどり		

一 辰砂岩ろくしやうのやうの物御座候得共獮迄ヲ

心懸申ニ付此段ハ睨と知不申候

一 彼地ニ大河三筋御座候、水主共右川ニ而手水

遣申候節山風ニ何方共なく宜香仕候、その外ニも

72

玆敷物茂可有御座奉存候得共深山ニ而山之

内へ者ふかく参かたき由申候

第御四箇條之御請

一 竹嶋東西広サ之儀竹木重り相知不申候由并

嶋廻り者凡拾里余茂可有御座候哉と水主共申候

絵図之儀者別紙ニ仕差上申候

第御五箇條之御請

一 竹嶋ニみち魚之外獸類有之哉と

73

御尋被為遊候、左之通書付差上申候

鳥獸之類

一	みち魚	一	ねこ	一	鼠
一	山雀	一	雀	一	あな鳥
一	鳩	一	ひよ鳥	一	かわらひわ
一	四十雀	一	かもめ	一	鶉
一	なちこ	一	つはめ	一	鷺
一	くまたか	一	その外鷹類		

74

第御六箇條之御請

一 唐人相渡候時節と伯耆国より相渡候時節と

違候哉と被為遊

御尋候、古来此方より^者一二月^ニ渡海七月上旬帰帆

仕候、年々渡海之節吟味仕見申候処此方より彼嶋

小屋之内囲置候諸道具獵舟等少も取敷候様子

相見江不申候間唐人共前々渡海仕候儀ハ無御座と奉存候

但元禄五壬申歳三月^ニ唐人初^而渡海仕候様^ニ

75

奉存候、然共唐人渡海之時節^者不奉存候

第御七箇條之御請

一 伯耆国より竹嶋迄渡海之數里并竹嶋より朝鮮^江

渡海之數里被為遊

御尋候、米子より竹嶋^{江者}百四五拾里竹嶋より朝鮮^{江者}

四拾里程可有御座候様^ニ水主共申候、濱目三ツ柳

村より隱岐国嶋後^江三拾五六里御座候、竹嶋より朝鮮

山を見渡候處^ニ少遠ク相見江候故四拾里程と

76

申上候

右之通此度被為遊

御尋候付、古来書留置候趣相残候水主共へ相尋

書付差上申候、以上

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九丙辰年閏四月三日

伯州米子町人

村川市兵衛

77

右^者元和三丁巳年より元禄九丙子年迄八拾

貳年之間有増如斯御座候、尤竹嶋渡海制禁^ニ

被為

仰付候節、元禄九年より享保九年甲辰年迄

貳拾九年以後再三之

御尋^ニ付御請書并絵図等則相模守様迄

奉差上候、且元和三年以来より当時元文三年迄

都合百式拾弍年成申候、以上

7
8

元文三戊午年十二月

7
9

(白紙)

8
0

(白紙)